



実施者

- <教員> 千葉大学 特任専門員 / 地域コーディネーター 阿部 厚司
 <学生> 千葉大学 大学院 融合理工学府先進理化学専攻生物学コース 機能生態学研究室 修士1年 奥山 登啓
 <協働パートナー>
 【行政】南房総市役所 市民課 市民協働グループ 【企業等】ヤマナハウス, シラハマ校舎
 【個人】ヤマナハウス南房総三芳のシェア里山 代表 永森 昌志, 副代表 沖 浩志, マネージャー 溝口 耕一
 合同会社 WOULD 代表 多田朋和

1. 背景・目的

日本は世界的に「科学的な思考力」の育成が不十分であると指摘されている。科学的思考力とは、科学的な知識に基づき、論理的に判断したり活用したりする力である。このような教育課題の背景として、私は、教育実習での実体験を踏まえて次のことを指摘したい。一つが、「暗記型の学習スタイルにより、アウトプットの機会が失われている」点である。中等教育で扱う内容はますます高度化しており、特に生物の分野において顕著といえる。進学校であればあるほど、生徒が目見て手で触れるといった機会は、教科書暗記型の学習に取って代わられてしまっている。もう一つが、「原体験に繋がる経験が、育った地域や親の影響によって等しく提供されていない」点である。大学の同期で生物を専攻している友人の多くは、幼少期に原体験となるような経験をしており、体験型学習の重要性が伺える。

そこで私は、南房総市の豊かな自然に着目した。首都圏に隣接しながらもたくさんの動植物が生息しており、自然が身近でない都会の学生にとってはもちろん、地域の学生にとっても最適なフィールドが用意されていると感じた。この環境を活かした自然体験型学習プログラムは、学校教育でインプットした知識を実際にアウトプットできる楽しさを感じると共に、その後、生徒自ら更なる学びへと発展させていくきっかけになると考えた。最終的には南房総市でのプログラムを例に、千葉県全域、さらには全国の地域でこうした取り組みが広がることを目指す。

2. 実施内容

(1) 実施期間

ヤマナハウス (4/23, 5/4～5, 6/4, 6/17～18, 7/9, 7/22～23, 9/9, 9/24, 10/8, 11/11～12, 1/14)
シラハマ校舎 (4/22) 計14回

(2) 活動内容

1) ヤマナハウス

ヤマナハウスでは、ヤマナメンバーの一員として月例イベントやヤマナアカデミーなどの活動に参加した。イベント等では、昨年度以上にスタッフとして関わる機会を頂けたため、実践的なスキルを身に付けることができた。中でも裏山のガイドは、県内の学生から移住を検討する都内在住の方々まで、非常に幅広い層を対象にしていたため、その時々合った説明を試行錯誤した印象である。また、ヤマナメンバーの繋がりから、地元のマルシェに参加させて頂き、趣味で飼育していたクワガタを出品する経験もした。地域の方々との交流を楽しみつつも、商売に必要なノウハウを肌で感じることができた。購入して下さった方々のほとんどは、ヤマナハウスをきっかけに知り合った方たちで、地方におけるコミュニティの重要性を痛感した。

2) シラハマ校舎

シラハマ校舎では、森プロジェクトと題して、昨年度に引き続き日本各地で進行中の「ナラ枯れ」という環境問題に取り掛かった。ナラ枯れとは、ブナ科の木にカシナガと呼ばれる昆虫が穿入し樹木を枯死させる伝染病である。千葉県では被害の多くがマテバシイとなっているが、マテバシイの事例は全国的にデータが少なく、県が対策に追われている。持続可能な防除策を考案する目的で、昨年度に引き続きシラハマ校舎の森で調査を行ない、カシナガの分布やその影響を調べた。昨年度設置したトラップについては、風の影響で飛ばされて回収が困難なものも多く、カシナガの姿を捉えることはできなかった。ただし、ナラ枯れした樹木は数多く見られた。シラハマ校舎の森はヤマナハウスの裏山と比べてもカシナガの被害が大きいように感じている。継続的な調査が必要である。

3) エコメッセ

千葉県が主催する「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」に出場し、見事に3位入賞を果たすことができた。アイデアは、これまで南房総市を中心に行ってきた教育活動がベースとなっており、科学的な思考力を養うための自由研究プログラムを企画するというものである。これまでの活動成果が公の場で認められ、大きな自信となった。スタートアップ会議には、ヤマナハウス代表の永森さんも現地に駆けつけて下さり、企画の内容や今後の展開について具体的なアドバイスを頂けた。南房総市での活動を、千葉県全域に波及させる大きな一歩になったと確信している。



1 マルシェへの参加 2 シラハマ校舎の森プロジェクト 3 千葉県アイデアコンテスト 4 交流の様子

域学協働の工夫！

- ★ヤマナハウス、シラハマ校舎という異なる拠点を活用できたことで、多様な視点から体験型学習の魅力について考えることができた。
- ★駅から活動拠点までの送迎をヤマナメンバーの方々へ依頼していたが、移動の効率が上がり作業時間が長く確保できただけでなく、車内でのコミュニケーションを通して関係をより深めることができた。
- ★シラハマ校舎での活動後そのままの足でヤマナハウスへと移動することで時間と移動費のコストを削減することができた。

3. 成果と課題

(1) 地域貢献面

地域の方々との交流を通して、自身が専門とする生物学の面白さをわかりやすく還元することができた。また、複数の組織を跨いで活動を展開したことで地域社会の結びつきをより強化することができたと感じる。一方、自然体験型学習プログラムの確立という最終的な目標に向けては、県の事業を通じてようやく一歩を踏み出した段階なので、今後より一層力を入れていく必要がある。

(2) 教育・研究面

ヤマナハウスでは、移住を希望する方々やゼミで訪問した大学生、塾の小中学生などを対象に里山のガイドを行った。一方的に説明す

るのではなく、参加者との掛け合いを大事にし、山登りの経験がない参加者でも楽しめるような案内を心がけ、教育面に貢献できたとと言える。

4. 今後の展開

今年度は、率先して現場に立つことでどんなプログラムに関心やニーズがあるのかイメージを膨らませることができた。また、県が主催するアイデアコンテストに出場するなど活動の幅を広げ、自然体験型学習プログラムをより具体的かつ現実的なものとして提案できるようになった。今後は、これまで培った経験やコミュニティを活かして、より多くの団体を巻き込みながら計画を実践に移していきたい。

*表彰・マスコミ掲載など

- ・「YAMANA HOUSE」掲載 <https://yamanahouse.site/news/2023/09/11/article03/>
- ・「南房総市移住・定住情報サイト」掲載 <https://www.minamibosociety-iju.jp/note/yamana-house/>
- ・「株式会社ミライノラボ【公式】」掲載 <https://note.com/mirainolab/n/n012b16b88f44>
- ・「エコメッセちば実行委員会【公式】」掲載 <https://www.sotwe.com/ecomessechiba>
- ・「千葉県」「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」の開催について」掲載 <https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/kankyougakushuu/wakamono/2023/kontesutokaisai.html>